

新県立博物館について～知事説明～

平成 23 年 6 月 3 日
三重県知事 鈴木 英敬

新県立博物館の整備について、私が行いました検証結果について
ご報告申し上げます。お手元の資料 6 及び 7 により説明いたします。

(検証にあたって)

※(資料 7) 1 ページ参照

はじめに、検証にあたっての思いを申し上げておきたいと思いま
す。私は、知事就任にあたり、歳出見直しの観点から県のすべての
事業をゼロベースで見直すと申し上げてまいりました。新博物館の
整備につきましても同様とし、しかし、続行・中止の結論について
の予断を一切もつことなく検証を進めてまいりました。

私は、歴史や文化とは、先人の知恵や自らのふるさとのもつ卓越
性を学び、これからの未来に向けて生きていくための知恵やエネル
ギーに代えていくためのものであると考えており、博物館等が、そ
の機能を果たせるか否かが重要であるという考えを持っております。

新博物館の整備につきましては、平成 19 年度から構想、計画、設
計を進め、平成 23 年 1 月に建築工事に着手したところです。この間、
段階ごとに県民の皆様との意見交換やアンケートなどにより、意見
をお聞きし、また、県議会の方々と議論を尽くしてきた結果、昨年

度には、建築予算の承認を得たところです。承認にあたっては、附帯決議もいただき、県議会として、今後引き続き、本事業に責任をもって関わっていくこととしていただいていると認識しています。また、この事業につきましては、トータルすると過去 26 年にわたって様々な検討が行われてきた経緯があります。

私は、これらの過程は尊重しなければならないし、県民の方々の中にくすぶっている不安や不満なども、一日も早く終止符を打たなければならないと思っていました。3 月 11 日の東日本大震災以降の社会情勢の変化や、現在の厳しい財政状況を考えた時、少なからず「中止すべき」との声が私のところに届いているのも事実です。既に、工事は着工していることでもあり、中止するにしても財政上の負担は大きいと思われます。何より、これまでの膨大な議論を考えると、中止するのも簡単なことではありません。

そこで、本件につきましては、今年度行おうとしている「三重県版事業仕分け」に任せるのではなく、私自身が県民の皆様に代わって、本当にこのまま進めてよいのかという点から、検証させていただくこととしました。

私が、今後 4 年間の県政を預かる者として、将来にわたって県民の皆様に責任を持った説明ができるかどうか、県民の皆様の目線というものを大切にして検証を行いました。

(検証方針)

※(資料7) 1 ページ参照

では、資料にそって、2の検証方針についてご説明いたします。

検証にあたっては、「新県立博物館を作る必要性」、「なぜ今か」、「財政負担の考え方」の3つの論点を設けました。

また、検証作業は、担当部である生活・文化部等から説明を聞くとともに、先進的な取組を行っている博物館、現県立博物館、市町博物館を視察し、これらで得たデータや知見をもとに行いました。

(検証内容 新県立博物館を作る必要性)

※(資料7) 1 ページ参照

次に、検証内容について、論点にそってご説明いたします。

1点目の新県立博物館を作る必要性についてです。私は、2つの点から、今後更なる中身のつくりこみの努力を重ねるということで、県民にとって新博物館が必要な施設となることを確認しました。

まず、先進的な博物館や市町の博物館、現県立博物館の現状を視察し、また、公式、非公式に様々な方々から話をお聞きする中で、新博物館が、今後の三重にとって、アイデンティティの創造と継承、子どもたちの成長、県民が生きていく上での心の支えにとって大きな役割を果たす重要な機関となることができると認識しました。

次に、新博物館は、三重のもつすごさや無限の可能性を発信し、新たな豊かさのモデルとなる社会づくりに貢献する潜在的な可能性を十分に持っているということについて確信を持ちました。

とりわけ、新博物館は、三重に関する資料やデータを蓄積し、調査研究することにより、三重のことを明らかにして、現在や未来を考えるためのシンクタンクとしての役割を果たすとともに、三重のもつすごさを発信することで、県民が三重に誇りを持つことや、県外・海外への存在感を高めることに役立ちます。

今後のつくりこみ方により、現在日本全体が置かれているアイデンティティの喪失状態の中、県民が自ら住む三重県に対してアイデンティティを再構築するきっかけとなり、それに自信を深め、前向きに毎日を生きていくエネルギーを生むきっかけとなる施設としていけると感じました。

(なぜ今か)

※(資料7) 2 ページ参照

次に、なぜ今か、という点についてです。

東日本大震災の被災地での被害状況をみて、そこに住む人々の歴史や文化をあらわす写真やモノの貴重さ、大切さについて、改めて見直す状況が日本全国に広がっています。三重の自然や歴史、文化に関する資産を守り、継承することが、三重のアイデンティティを

守り、継承することであり、県には、これら三重の資産を保全・継承する責務があります。

このことを踏まえた上で、まず、県内の既存施設で役割を果たすことはできないのかということについて検証しました。

これについては、現博物館が収蔵する約 28 万点の資料を分けて収蔵する場所は、県内にないことや、収蔵庫だけを建設しても資料の活用ができないこと、資料の活用のためには学芸員とバックヤードが必要であるということを確認しました。

次に、現在、学校以外で三重のことを知る場がなく、三重のことを知らない子どもが増えており、県について学べる博物館は、他県の博物館では代替できないことであり、この問題への対応が早急に必要であるということも確認しました。

最後に、なぜ今か、ということの最大の理由である「現県立博物館の老朽化」について検証しました。何より、私は、単に建物が古くなったから、建て直すという考え方であれば容認しません。

しかし、今回ゼロベースで、現博物館を視察し、そこにある約 28 万点の資料は、まさしく三重の歴史、文化、自然をあらわすモノであり、これらを継承する博物館の役割が重要であると感じました。これら収蔵品の保存の観点から、現博物館の老朽化の状況はかなりひどいことや、市町の博物館の状況から、半世紀以上かけて集まっ

た現博物館の資料や地域にある資料を安心して保管できる場所が県内にはなく、特に自然分野の収蔵庫は、現博物館以外にはほとんどないことを確認しました。そういう意味で、三重のアイデンティティを守り、継承するうえで、今の状況は逼迫していると考えました。

また、現博物館は、現在耐震基準を満たしていないことから、県有施設の耐震化計画に基づき、平成 26 年度までに耐震改修または解体を行う必要がありますし、そのためには莫大な費用がかかります。何より私が心を痛めたことの 1 つは、現在、博物館のサポートスタッフの方が研修等で博物館を使わなければいけない状況です。心ある県民の方々をこのように危険な状態にさらしておくわけにはいきませんので、これは早急に対処すべき切実な問題であると痛感いたしました。

この現博物館の状況については、平成 20 年 12 月の財政問題調査会においても、(以下、県議会「財政問題調査会第二次答申」からの引用)「これは 10 年以上前から新県立博物館整備計画が何度も断続的に検討されており、現博物館への維持修繕投資が減額・見送りされたことが大きな要因になっていると推察されます。結果的に、これまで正式な意思決定が得られない状態での新県立博物館整備計画が、現博物館の寿命を短くし、なし崩し的に新県立博物館の決定を促しているともいえます。」と指摘されていることは、まさしくそのとおりであ

り、私もまた同じことを繰り返してはならない、これ以上先送りしていくことはできないと改めて感じました。

（財政負担の考え方）

※（資料7）3ページ参照

次に、財政負担の考え方については、過去の県議会での「財政問題調査会」の答申や県の説明を聞きましたが、私としましては、内容については理解しましたが、これだけでは県民の皆様の安心につながる十分な説明ができるという確信をもつには至りませんでした。

整備費 120 億円と年間の運営費 4 億 5 千万円については、確かに、市場公募債や国の交付金の活用、ふるさと納税などにより、県費負担の削減策が講じられてきました。それでもなお、私は、まだ対策が足りないという思いで、担当部にもいろいろと質問したり、自分でも考えました。結論的には、この 3 点目の問題をどう判断するかが、全体の判断に大きく関わることになり、本日の説明まで、時間がかかったということであります。

このような中では、検証では、120 億円の内容についても説明を受け、博物館をつくる以上、いいものにしていく上で必要なものと理解していますが、イニシャルコストもできる限り縮減するため、今後投入する経費についても、無駄のないよう一つひとつ吟味し、節約に努めなければなりません。

(検証結果)

※(資料7) 3ページ参照

以上の検証作業を通じて、私の最終的な判断についてご説明いたします。

先に説明いたしましたとおり、設定した3つの論点のうち、「新県立博物館を作る必要性」及び「なぜ今か」の2点については、説明できることを確認できたと考えています。残る「財政負担の考え方」については、一定の理解はできましたが、当初は責任をもって説明するための確信をもつことができませんでした。

このため、どう判断すべきか、大変悩みました。

この場で説明しきれませんが、他にもいろいろと材料は集めました(やめた場合にどのような負担がかかるのか等)が、決定に至らず、最終的には、判断というより、知事として「決断」というような結果になったと考えています。

結論としては、これまでなされてきた説明と同様ではありますが、財源の工夫や、この事業を行うことで他の推進すべき事業に影響を与えることのないよう知事としてさまざまな努力のもと、信念をもって予算編成を行うことを前提に、新博物館の整備を進めることが妥当であると判断いたしました。

このため、以下の7点に取り組みます。このことは、整備を進める前提として説明責任を果たす上でも、今後、知事として責任をも

って行いたいと思います。

この7つの中には、実は、基本計画や財政問題調査会の答申に記載されている事項も含まれています。具体化・着手されずに放置されていた事項もありますので、それらをきっちりと具体化するとともに、私なりに現在の博物館計画に足りないと感じていることを明確にし、実施していきたいと思っていることをまとめたものです。

(新県立博物館を整備する前提となること)

※(資料7) 3～4 ページ参照

- ① 総事業費を含めた支出の節減努力を不断に行う。段階的な増収も盛り込んだ収入計画を立案し、年間の運営費 4 億 5 千万円に対する県費負担について、2 割程度削減すること
- ② 入館者増、企業からの寄付などの収入増を実現するため、広報体制を強化すること
- ③ 外部有識者による委員会(「経営向上委員会(仮称)」)を立ち上げ、第三者の視点から博物館事業の経営面などについて評価し、改善していくための仕組みを早期に導入すること
- ④ 多様なアイデアをもとに民間の参画による経営基盤の確立をはかること
- ⑤ 現博物館について県費負担をかけないような解決策を示すこと

⑥ 自然エネルギーの活用について、当初計画よりも一層拡大すること

⑦ 金銭価値では示せない社会への影響・効果を明示し、それらへの取組状況を確認するための評価と改善のしくみをつくること

（検証結果に基づく博物館づくり） ※（資料7）4 ページ参照

新博物館の整備を行うという判断に際して、私なりに受け止めた新博物館の意義について少しご説明したいと思います。

日本は、戦後、「経済大国」ということが大きなアイデンティティの1つでありました。しかし、現状はご承知のとおりであり、今やその自らのアイデンティティについて、いわば自己喪失に陥った状態にあります。しかし、今日本として1つのアイデンティティを形成することは難しく、むしろ今こそ、地域においてアイデンティティを再構築していくことが重要な時代となっております。

今回の博物館は、今後の県民総がかりでのつくりこみや発信の努力により、そのための手段となることができると考えています。いわば成熟社会における新しい豊かさの一つの手段にもなると理解しました。あわせて、新博物館の資料や展示などにおいても、一番古いとか、一番大きいとかに価値を見出すのではなく、三重や県民のアイデンティティを証明するものや、これから三重県や県民がも

っと元気に、前向きに生きていくために活用することができると考えています。

学術的な追求と、県民が心に刻まなければならないことの双方が現れた展示や調査研究であることが必要です。未来に向けて、県民が何を心に刻めばいいのか、未来を前向きに生きていくためにも、どういうメッセージを受けとればいいのか、そのために博物館があるようにしたいと考えています。

私の思いは、この博物館で、三重県民が、仲間とともに、三重のもつすごさを実感して、将来の夢や希望を抱くきっかけを見つけられること、さらに、こうした三重のもつすごさを外（県外、海外）に発信していくことにより、県外や海外での三重の存在感を高め、県民にとってはアイデンティティの再構築やそれによる更なる誇りの醸成につながる博物館としていきたいということです。

このように、新博物館は、今後私が進めていこうとしている新しい県政ビジョンの展開にあたって、重要な役割を果たすと考えています。そのためのつくりこみの努力は、議員各位のご指導、ご協力をいただきながら、まだまだやっていかなければなりません。

(三重のアイデンティティをわかりやすく発信する博物館づくり)

※(資料7) 4 ページ参照

そのために、これまでの博物館計画に加え、以下3つの考え方を盛り込んだ博物館づくりを進めたいと考えています。

まず、1点目は、三重のアイデンティティをわかりやすく発信する博物館づくりです。博物館のもつ資料や情報などを、大きさや希少さで競うのではなく、県民が三重の何を心に刻めばいいのか、その背景や成り立ちなどをストーリーとして提示する、三重のもつすごさをわかりやすく発信する博物館をめざして取り組みたいと考えています。

この意味からも、新博物館が公文書館の機能をもつことは、より三重のことを知ることにつながると考えています。

(“わたしの博物館”づくり)

※(資料7) 5 ページ参照

2点目は、県民一人ひとりにとっての“わたしの博物館”にしていくことです。一部の人が利用する博物館ではなく、遠くに住む人にとっても身近で、多くの県民が自分の博物館として日常的に繰り返し利用する博物館づくりを進めます。このために、キーワードを「参加・参画」とし、①まず来てもらう、②“博物館ってこんなことができる”ことを知ってもらう、③一人ひとりが共

鳴できる接点をたくさん用意する、④一人ひとりが“わたしの博物館”と思える取組と運営を行います。

このような“わたしの博物館”づくりを通じて、県民の皆様にとって、仲間がいて楽しい、行くだけで元気になり明日もがんばろう、と思えるような博物館としていきたいと考えています。

“わたしの博物館”は、“みんなの博物館”へとつながり、さらには、もっと良くしたいという気持ちが湧いてきて、みんなで支える文化をもった博物館へと発展していけるようにしていきたいと考えています。

この博物館が、皆様一人ひとりにとって“わたしの博物館”となり、それが“みんなの博物館”へとつながり、さらに、県民の皆様はもちろん、市町や企業、団体など多様な皆様に支える文化をもった博物館になっていけばいいと考えています。

（市町や民間の博物館等を支え、協力・連携して三重を発信する博物館づくり） **※（資料7）6ページ参照**

3点目は、市町や民間の博物館等を支え、協力・連携して三重を発信する博物館づくりです。三重のアイデンティティを明らかにして、発信していくために、新博物館は、県内の市町や民間の博物館等との協力・連携のもと、各地の良さを束ねて、さらに大

きな独自性へと高め、発信していく役割を果たします。このため、個性ある県内の博物館等の魅力をさらに高め、各館の資料保存や展示活動等の技術的支援、市町に人材がいない専門分野を支援するとともに、これらの館と協力・連携して三重を発信するための体制の構築を進めたいと考えています。

このことにより、三重県全体の自然や歴史、文化に関する資産の保全と継承や三重のアイデンティティの発信のための基盤を強化し、東日本大震災後における日本の自然と歴史、文化の再生、復興の牽引役をめざしたいと考えています。

今朝、津市長から建設促進についての要望を受け取りましたが、ぜひ、津市をはじめ、県内の市町の皆様とともに、三重のアイデンティティを共有し、県外に向けて発信していくことを進めていきたいと思います。

(おわりに)

最後に、県議会の皆様とは、今後とも活発な議論を通じて、共により良い、県民の皆様のためになる博物館づくりを進めていきたいと思います。何卒格段のご指導ご協力をお願い申し上げます。